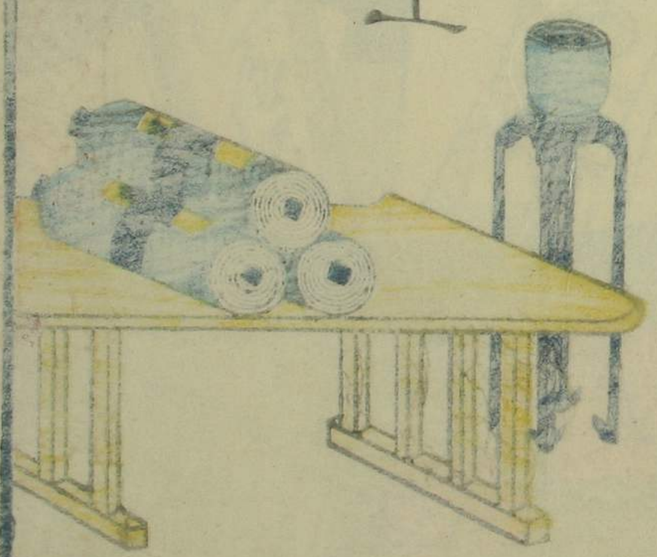
大和文庫

へ13
2944
14

へ13
2944
14

四合鑑

巻之上



昭和九年
七月九日
購求

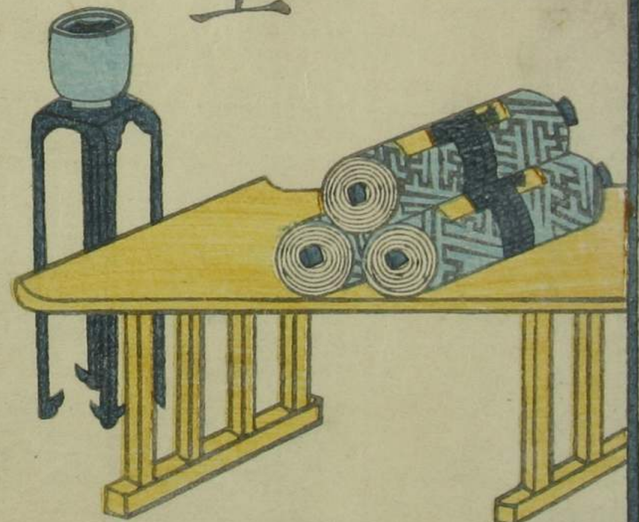
倭文庫

安政六
巳未春
新梓

四拾編

巻之上

万亭應賀作
歌川國貞画



人形町通
上州屋重藏板

歌川國貞画
万亭應賀作
上州屋板
下
倭文庫四拾編
安政六
己未春
新刊
升題豊國画
上

倭文庫四拾編巻之下

應賀作　　鈔重堂

國貞画　　上梓

釋迦八相倭文庫四拾編叙

夫經巻に有人物は其生と死と詳にせず唯時宜の一條宛而已と説めるれども信者の同行敢て夫を尋ぬ邂逅戯双史を見て善悪の應報人物の始有て終るものの有ば少女も穴と穿て作者と諺噂甚しされば二編に發覚る阿私陀仙を此編にて終せ兼て抱ゆ者の鹿野女の局或は丹車の身の終をも筆に含ば所謂彼先へも一里後へも一里のこえご間の宿に休て本意なれ噂に那風と引ハクサツくの氣障を除く爲なるにこれ

安政六巳未年
孟陬吉旦發行

万亭應賀誌

天女実ハ法性妙顕

提婆達多
伊奈利国香山の峯におりて僞の天女をもて阿闍世太子に媒妁を
提婆達多
阿闍世太子

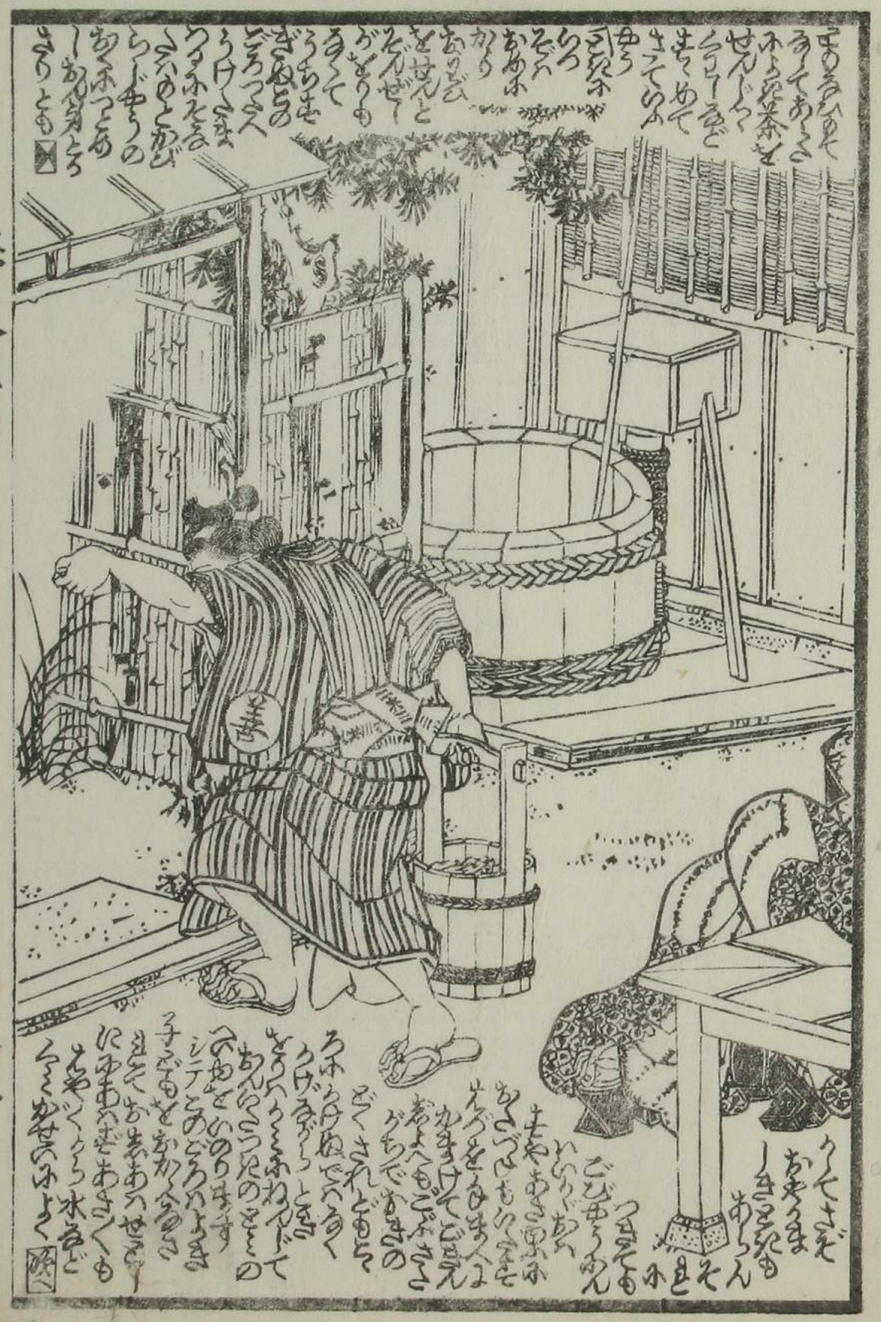
迦毘羅城の
慾
女中
優陀夷の女房
好容夫人
鹿野女の尻

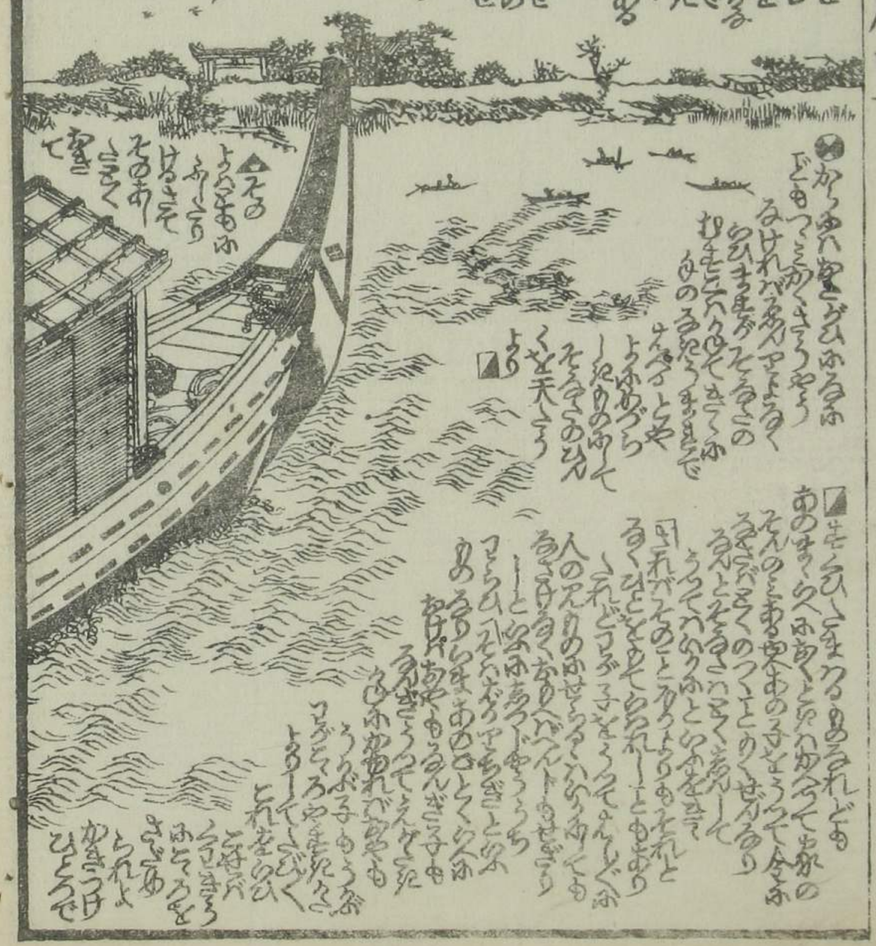
世尊
迦毘羅城の
上臈衆
世尊に法衣
と献ぎ
舎利弗尊者

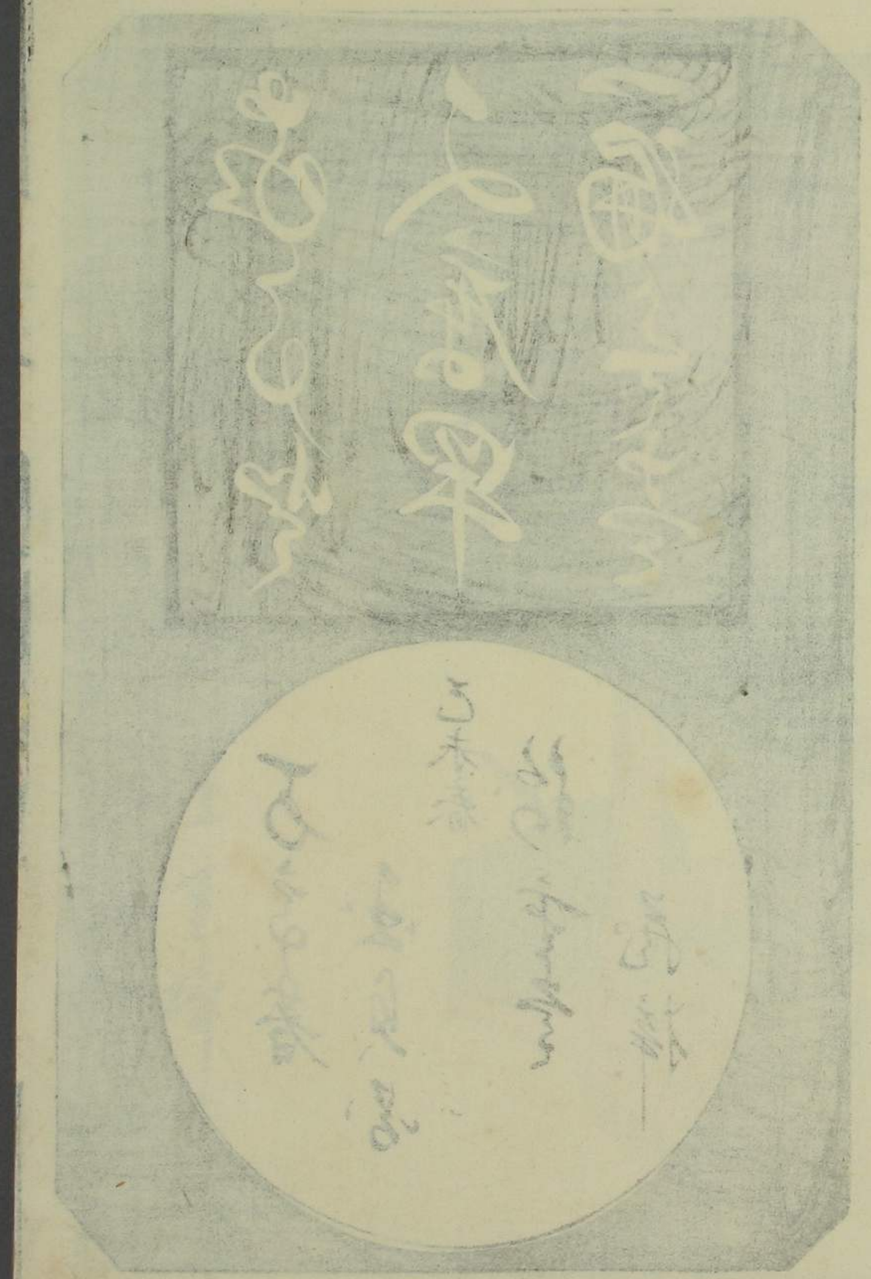
「つき」さてふみのくをうけて
おのひくのまろわなかりしが
なかてあそのふえのものをせよ
これものものさでそなかうたの
のろくえてひなかとそのの
だよりきあのののせと
ゆもうれてたいのつき
ひちをうもうもくるものまと
とけさあるふいまま
でらをうまあてけの
なをたうれとあ
あびさつにあ
あうるのまろ
まもあまるま
ろのわ日
れなそえ
それと
とをうは
てそのあ
くまあ
ものまそ
くまのたふ

そこのぞきてみれば
たきりの岩ねのもとより
ほそ子ほの水をのみ
そのうへのやまとのさまを
ながめやうやくおりてゆくに
ふもとのさとにいたりぬ
それよりさんかいをへてひとぐのあるを

應賀作 國貞画

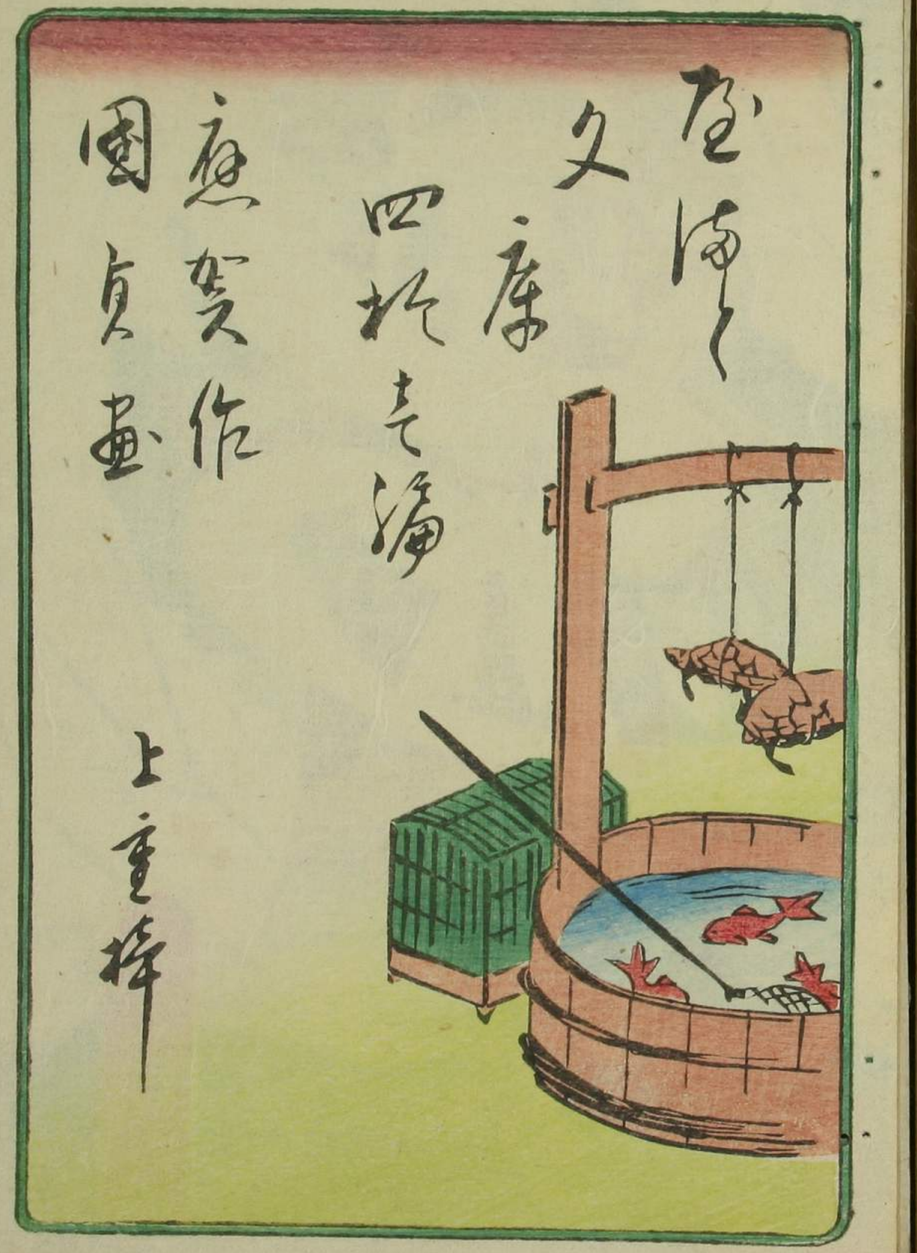


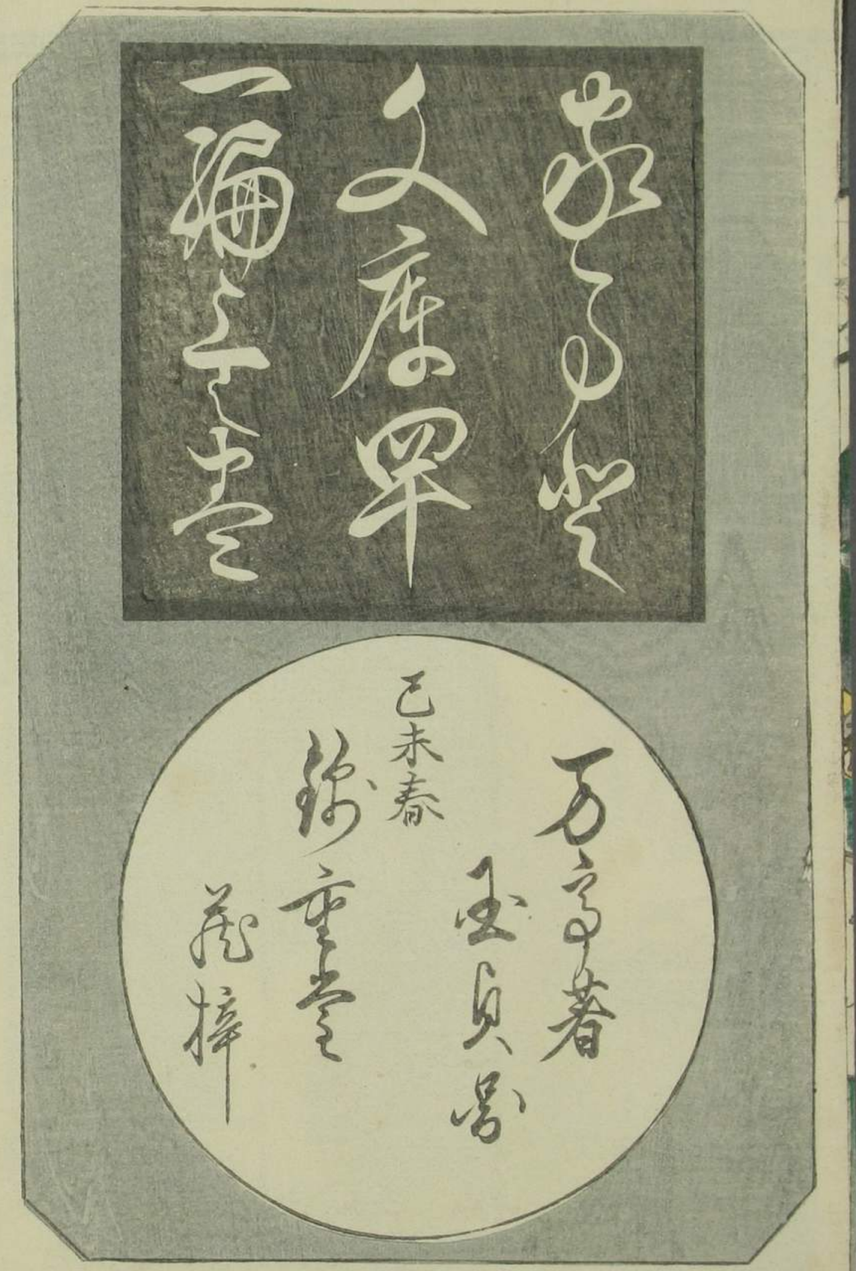




万亭應賀作

一壽齋國貞画


登海之
文庫
四杯壱編
應賀作
國貞畫
上重梓


西鶴之
文庫畢
一編之壱
万寿著
国貞畫
乙未春
錦重堂
藏梓

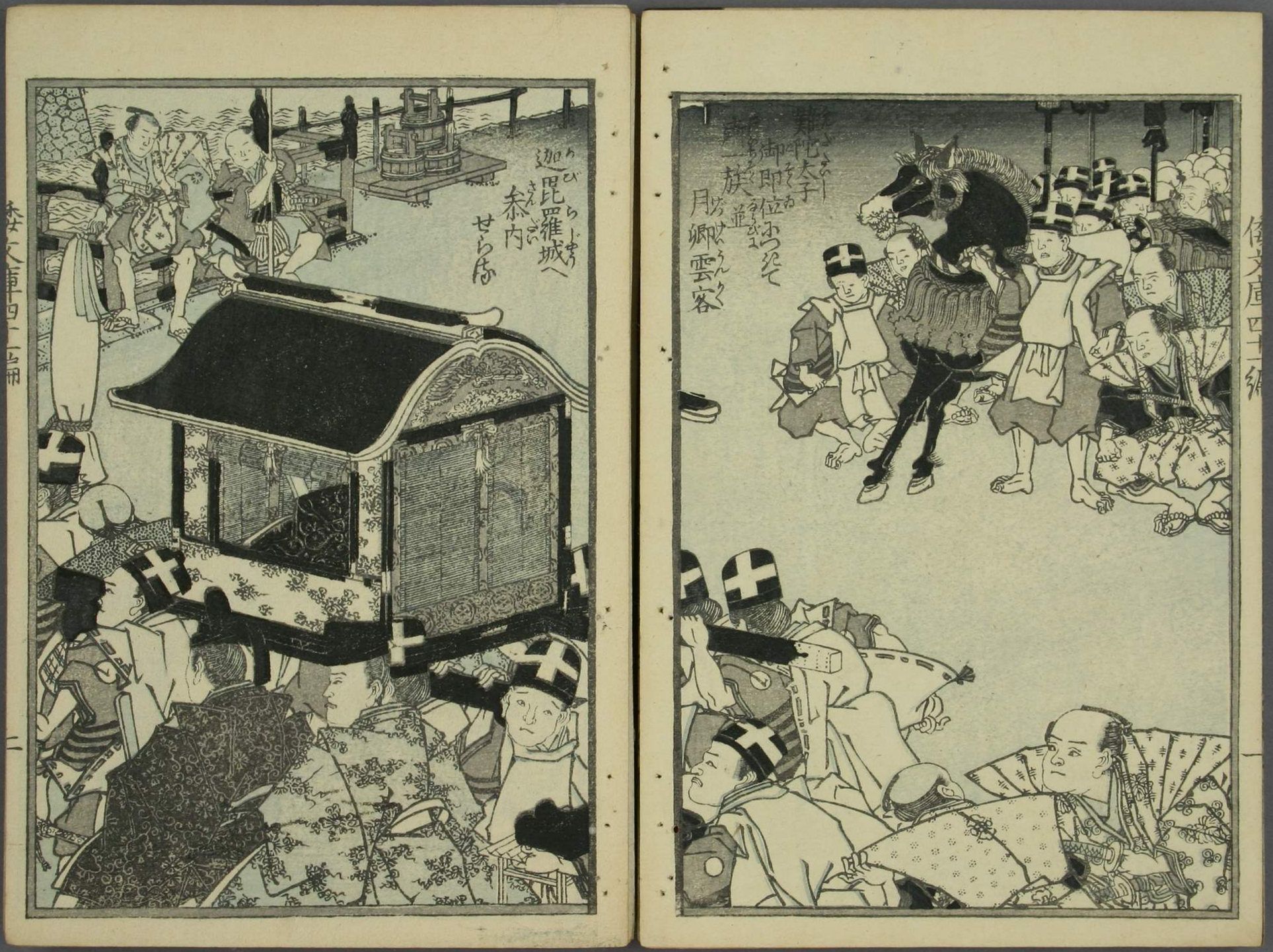
倭文庫四拾編
万亭應賀作
歌川國貞画
下
北廻曲ろ之圖画
錦重堂版
上

釋迦八相倭文庫四拾一編序

夫賢を賢として色に易るは妻乞雉子の春情色を色とし
て劍を賢とするは正宗の廓通ひにやさそすも賢を賢とせずして
色を色とそむくなける難陀太子も三冥土の戒に肝を冷して賢を
守さて万乗の位に上る嘉あれば又善星童子の悪念ある大欲却て無
欲の亡八刀尋段々壊の經文を舎利弗の危難に露し花子が入水の怨
灵は彼黒女が絹川堤のその容体に彷彿たる何國も今ド煩悩に了る
迷ひも菩提の種竟にハ仏果を得るなほべし

安政六巳未年孟陽吉旦

万亭應賀誌

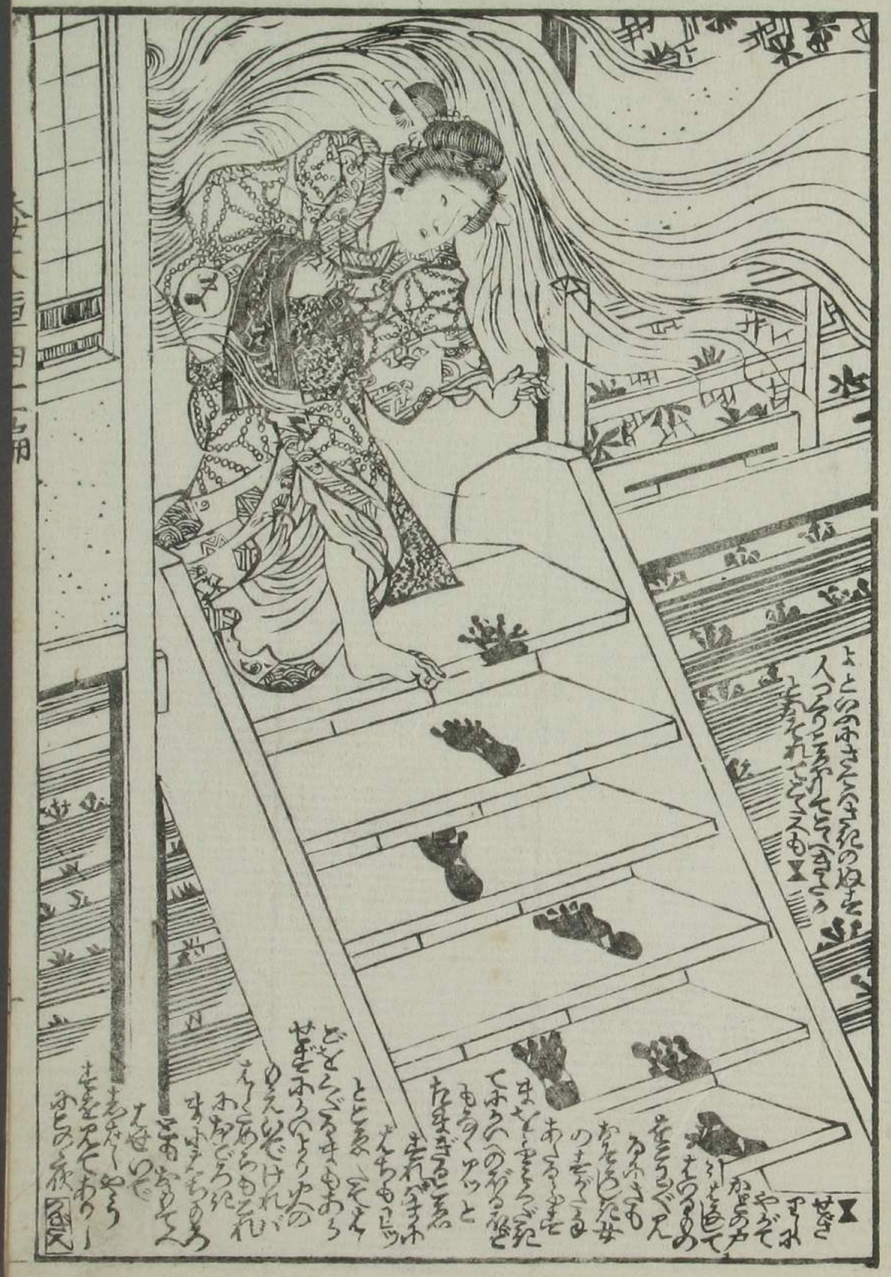

迦毘羅城へ
参内
せらる
月卿雲客

七八の肝煎
撻君
摩尼
鉢

離婆多法師
七八の肝煎
木訥の悴
土を奪んとして
法師
離婆多を
打摸
せしむ

花

丹
牧



應賀作
國貞画

立場茶屋

万亭應賀作

一壽齋國貞画

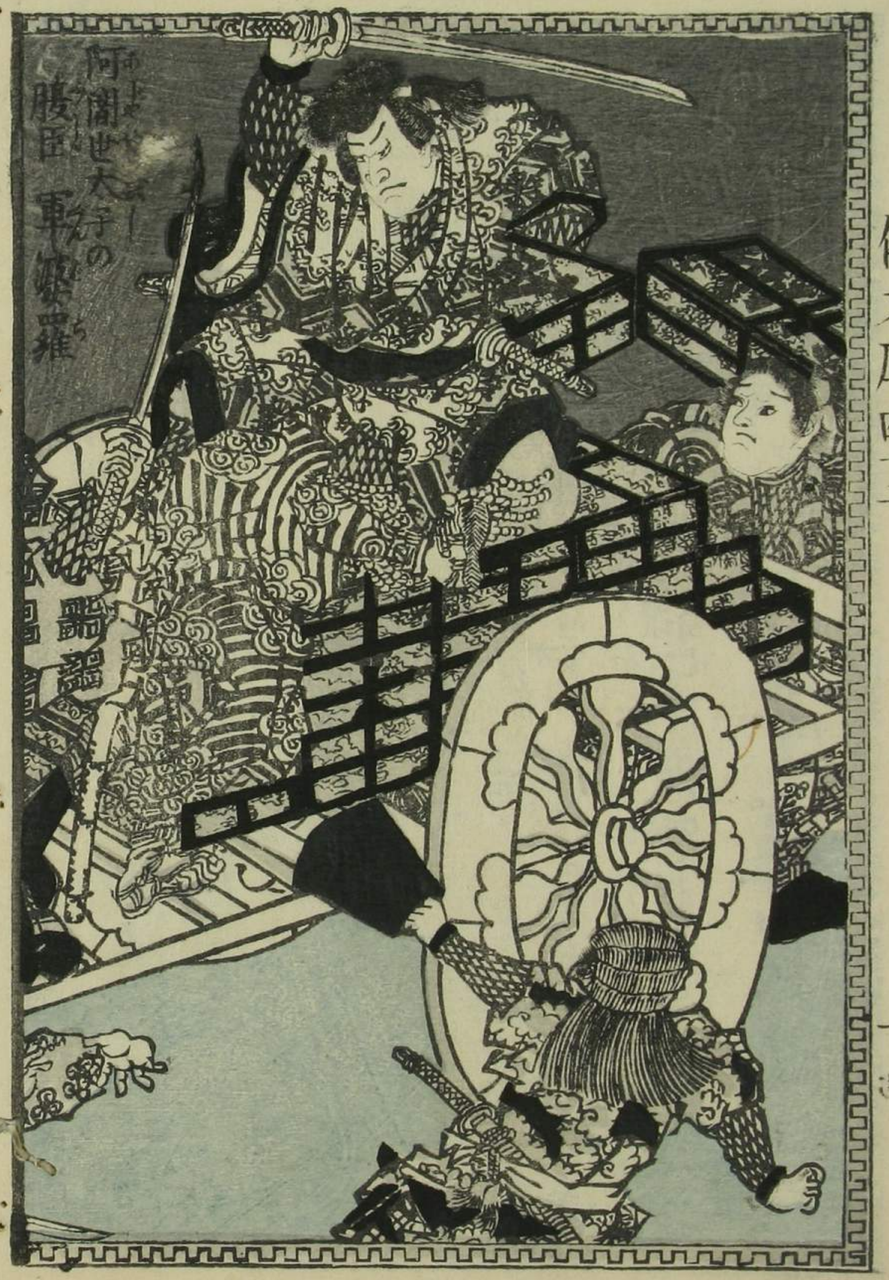
歌川國貞画
錦童堂版
下
万亭應賀作
倭文庫四拾一編
外題豊國包
上

釋迦八相倭文庫四拾二編序

夫天竺ハ夏至の日満中にして無影天ハ五行の土徳に中て色ハ即是黄人数ハ五寸をもつて一尺とす　本朝崎陽より摩伽陀國なる流沙の川ま
で凡三千七百里と云々尚川上に行てコリヒサラとゆふ城あり此場ハ
日本の空海と文珠と法談の所とゆへりさそ霊鷲山ハ「タイカイの都
より四十二里流沙の川上にして三月より四月まゝ市を立るおもを
八日市とゆふ是ハ世尊の滅期より始てくるものなりしさまども
後をもつて前に引揚前をもつて後に繰下る少戈利根の得手
勝手ハ貧乏人の質種須舊家の雑作に異なるで揚下によく
骨を折るその陳謝を誌なるべき二十枚の紙ハ迷らず註譯の
にて終る歴し唯何事も大槩に渉推察あまと示云

安政六巳未歳
孟春新梓發行

万亭應賀述


阿闍世太子の
腹臣軍婆羅

靈鷲山の麓に
あつて
頻婆
婆羅
王
如閻達
長者の
法施の
珍寶
幾許を奪採る

座禪石

靈就鳥山より四十二里流沙川の上にあり其盤石の高さ三十二町流沙川の水上に覆峙て甚奇石なりといふ

釋迦牟尼世尊

天竺の数目

一ヲ とむう ト云　二ヲ とらを ト云　三ヲ てれを ト云
四ヲ くるろ ト云　五ヲ まむく ト云　六ヲ せのし ト云
七ヲ せのらく ト云　八ヲ あむく ト云　九ヲ のひ ト云
十ヲ てし ト云　百ヲ てむて ト云　万ヲ まむ ト云

印度の名産

一 珊瑚珠 流沙川恒河川あつぐの江海のあつぐよりいづる

一 奇楠 男とも沈香女とす

一 狽夏羅 こんこもにてこれをたちとゞ たゞるにものへ

一 鯉鮒鱸 ひとうさりより あゆくいづる これを佳味とす

一 椰子 実も うへも 功績あり 二ツにこりて うつこめ とも ひろて てう法 あり

御泊宿

丸中

霊就鳥山著闇山屈

登り一里

大伊加伊都江

四十二里

富
丹

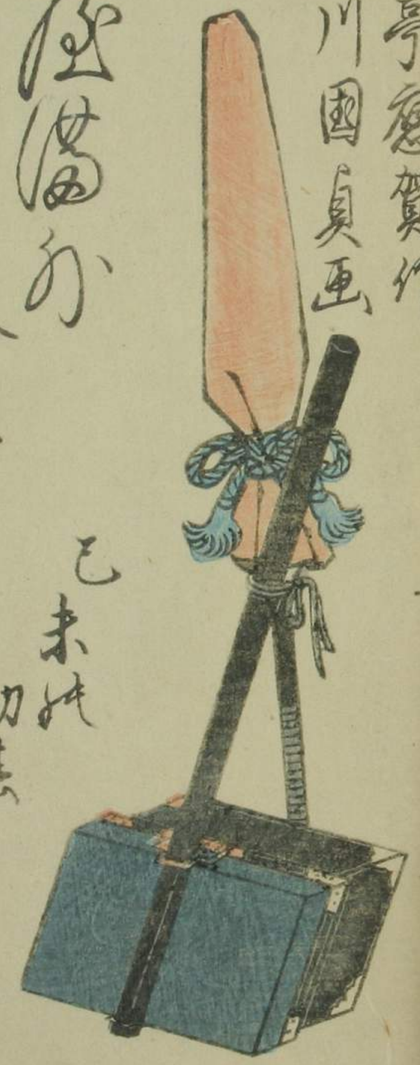
丹
軍

應賀作　國貞画

是
諸行無常

定
米

万亭應賀作
歌川國貞画



座満が
文庫
四拾二編
ふくしまく

己未姓
初春

錦重堂
寿桜

万亭應賀作

一壽齋國貞画